

平成27年度 中央区立久松幼稚園 自己評価報告書

中央区立久松幼稚園 住所 東京都中央区日本橋久松町7-2

園長 早川 幸

幼児数 166名 学級数 7 教員数 9名 職員数 7名

教育目標

人間尊重の精神を基調として、生きる力の基礎を培う教育を推進する。心身ともに健康で主体的に身近な環境や人と関わりながら、節度ある礼儀や基本的生活習慣、規範意識の基礎を培うことを目指し、次のような子どもの育成に努める。

- たくましい子 ・心身ともに健康な子を育てる。
- 進んでやる子 ・素直に表現し、自ら考え進んで行動できる子を育てる。
- 心豊かな子 ・思いやりの心を持ち、心豊かな子を育てる。

27年度の重点 豊かな心と健やかな体の育成（連続性のある久松の教育を推進）
増築による影響を極力少なくした保育環境や指導の工夫（安全教育の推進）

重点目標1

自分から進んで健康で豊かな生活を送れるようにするために、必要な習慣や態度を身に付ける。そのために体験と繰り返しを重視する。特にあいさつする心地よさを味わえるようにする。

（道徳性の芽生え、規範意識、自立心の芽生え）

評価項目：

- ① 保護者との連携を密にしながら信頼関係を築く。
- ② うがい、手洗い、衣服の着脱、トイレなどの活動を毎日繰り返し体験する。
- ③ 多様な人と関わる場で気持ちよいあいさつをする機会を意図的に繰り返し設ける。

評価指標：（保護者・外部評価委員の評価8割以上）

- ① 保護者と幼児一人一人の成長や課題について降園時の情報共有、保護者会や学年・学級だよりの充実
- ② 幼稚園の様々な活動の中で、幼児一人一人の生活習慣の形成
- ③ 様々な人と関わる場面を通して、相手を見て気持ちのよいあいさつの実践

重点目標2

学級・学年を超えた関わりがもてるようにするために、他学年と一緒にする交流活動を充実する。

（多様な関わり、思考力の芽生え、思いやる心、協調性、言葉による伝え合い、認め合い、譲り合い）

評価項目：

- ① 関わることを楽しむために、異年齢の交流を意図的・計画的に設ける。
- ② 学級・学年間の交流の他、小グループでの異年齢活動を推進する。
- ③ 小学生、他の幼稚園・保育園、地域のさまざまな人との交流の機会を設ける。

評価指標：（保護者・外部評価委員の評価8割以上）

- ① 他学年と交流することで、一緒に遊ぶことや関わることを楽しむ経験
- ② 異年齢活動が充実するために、教職員が連携を深め、幼児一人一人の様子を把握し、幼児の興味や関心をとらえた保育
- ③ 併設小学校や他の幼稚園、保育園の教職員、地域の方々と連携を図り、情報交換や交流活動の充

実

重点目標 3

たくましい心と体を育成するために、身体全体を動かして多様な遊びをすることを中心にする。

(豊かな心と健やかな体、協調性、道徳性の芽生え、言葉による伝え合い、忍耐力)

評価項目：(保護者・外部評価委員の評価 8 割以上)

- ① コミュニティー道路、校庭、体育館、屋上という環境の特性を最大限に生かし、個や集団での体を動かす活動・遊びを繰り返し行う。
- ② 多様な運動遊びに喜んで取り組めるような環境づくりと安全指導の充実を図る。

評価指標：

- ① 環境の特性を生かしながら、個や集団での身体を動かす活動や遊びの充実
- ② 各年齢の発達に応じた取組をしながら、身体を動かして遊ぶことを楽しむとともに、自分の身を守る力の育成

重点目標 4

幼児の生活や心情を豊かにするために、栽培活動、食育、伝統行事を積極的に取り入れる。

(健康な心と体、自然との関わり、生命尊重、豊かな感性と表現)

評価項目：(保護者・外部評価委員の評価 8 割以上)

- ① 植物を計画的に栽培し、成長を楽しむ。
- ② 食への関心を高めるため、お弁当を中心に据えながら、育てて食べるなどの食育を推進する。
- ③ 様々な人と関われるよう七夕、地域めぐり等での獅子舞、お正月遊び等を充実する。

評価指標：

- ① コミュニティー道路での栽培活動を通して、水やりなどの世話をしながら生長を楽しむ経験
- ② 弁当をつくってくれたことへの感謝の気持ちや残さず食べる気持ちよさを感じる体験。また、栽培したものを使用して食べる活動の充実
- ③ 伝統行事を通して季節感を味わったり、地域社会の方々と触れ合ったりしながら、豊かな心情の育成

教員・保護者のアンケート結果から分かったこと

1 重点目標の達成状況と取組状況

発達に応じた生活習慣（あいさつ、うがい、手洗い、衣服の着脱など）については、日々繰り返し指導を行ってきた。幼児一人一人に習慣として身に付いてきていて、教員、保護者ともに、一定の評価を得ることができた。幼児が進んで、丁寧に取り組めるように、引き続き指導をする。

保護者へのアンケートの中で、幼稚園に喜んで登園している、遊びや活動に進んで取り組み楽しんでいるという項目に高い評価を得ることができた。その要因として、昨年度の反省から、幼稚園公開の期間を長くし、さまざまな活動内容を取り上げたり、見ていただきたい姿の視点をあげるようにしたりしたことで、保育や幼児の様子をより丁寧に見てもらえたためと考えられる。

保護者から増築工事のために、運動遊び、外遊びが十分にできていないのではないかという少数の意見があったが、体育館や屋上、コミュニティ道路等の場の活用や、鬼遊びやボール遊びなどのルールのある遊びを取り入れたりすることなど、工夫をしてきた。幼児は、興味・関心を広げながら体を動かして遊ぶことを楽しもうとする姿が見られる。

今年度の園内研究では、昨年度に引き続き「豊かな心と健やかな体の育成」を主題とし、～自分らしく表現する子どもを育てる～という副主題のもと、製作活動に視点をあて、幼児が自信をもって表現し、その子らしさを引き出す援助を探ることとした。幼児の興味・関心に応じた教材選び、発達に応じた技術を身に付けること、教師の教材研究などを引き続き行っていくとともに、これらの取組について、保護者に発信し教育活動、内容についてより理解してもらえようようにしたい。

栽培活動・食育・伝統行事を積極的に取り入れる項目では、教員・保護者から高い評価を得ている。教員から、幼児の目につくところにカメやザリガニ、メダカなどの生き物がいることで、興味や親しみをもつ姿が見られたと意見があった。また、栽培物に対しては、水やりを通して、生長や変化に気付くことができ、収穫して食べる嬉しさ、おいしさを味わえたという意見もあった。保護者にも、調理・季節行事などでお母さん先生として手伝いをしていただき、保育に参加する中で、幼児の育ちを感じていただけるよい機会となったと思われる。

保護者アンケートにPTA活動についての意見が複数寄せられた。疑問を感じる保護者が少数いる一方、子どもたちの様子を微笑ましく感じ、園の活動に喜んで参加してくださる保護者の方が大勢いた。今後も、保護者との信頼関係を築きながら、教育活動の意義や協力の必要性を丁寧に伝えることで、より理解と協力を得ることができると考える。

28年度に向けた取組

- 1 増築棟が完成し新しい環境になるので、安全な場の使い方や遊び方を職員間で共通理解し、幼児に指導するとともに、環境を生かした遊びの工夫を行っていく。
- 2 「自分らしく表現する子」を育てるために、発達に応じた経験を積み重ねていくための教材・援助の工夫を行っていく。
- 3 オリンピック・パラリンピックの開催の機会を刺激にして、「多様な活動・運動遊び」に進んで取り組めるような環境の工夫を行っていく。

評価委員：前田 晶雄委員 関口 利子委員、佐藤 寛委員、福田 俊子委員、川口 修一郎委員、
五味 まさみ委員

報告書作成者：早川 幸

評価時期 平成28年3月

1 重点目標の評価

重点目標1「様々な習慣や態度を身に付ける」について

評価項目（保護者との連携、基本的な生活習慣を身に付ける、発達に応じた生活習慣が身に付いている、
気持ちのよいあいさつをする）

- ・どの評価項目も、保護者アンケートでは、肯定的評価が90%を超えており、取組内容が十分に理解されているとともに、目標を十分に達成していると考えられる。
- ・基本的な生活習慣における具体的な場面では、咳をするとき手や腕をあてている幼児がおり、諸先生方の指導・協力体制を感じる事ができた。
- ・保護者が子どもの課題や悩みがあるときに、保護者が幼稚園側に何とかしてほしいとのことであったが、幼児の育ちや経験の必要性を伝え、保護者の気持ちに寄り添って連携して対応してほしい。

重点目標2「他学年との交流活動の充実」について

評価項目（一緒に遊ぶ楽しさ、やさしさやいたわり、憧れの気持ちを育む、教職員の連携を深める、
学級、学年、小グループでの異学年活動を楽しむ）

- ・どの項目も保護者から肯定的な評価を得ており、意図的・計画的な他学年との交流について取組内容が理解されている。しかし、小学校や他の幼稚園、保育園との連携については、学年によって多少偏りがあり、具体的な活動として実感されていないと思われる。しかし、2月の幼小合同の展覧会では、9年間の育ちを見ることができた。今後も引き続き、さまざまな交流が行われることを期待したい。

重点目標3「身体全体を動かして遊び、たくましい心と体の育成」について

評価項目（個や集団で身体を動かす活動や遊びの充実、各年齢に応じた取組、身体を動かすことを楽しむ）

- ・保護者からの肯定的評価が90%前後となっており、理解、目標ともに十分に達成している。また、増築工事が行われる中、校庭、体育館、屋上という環境の生かしながら工夫した指導が実践されており、幼児の活動が保障されていることがうかがえる。

重点目標4「幼児の生活や心情を豊かにすること」について

評価項目（栽培活動を通して喜んで栽培する、感謝の気持ちを育む、伝統行事を通して心情豊かにする、
地域の方々と触れ合う）

- ・どの評価項目も保護者の肯定的な評価が95%を超えており、十分に目標を達成している。特に、伝統行事である地域めぐりでは、地域の力を活用しながらさまざまな人との関わりを大事にしてほしい。

2 今後の改善に向けた意見

- ・保護者の自由記述の中に「いじめ」という言葉が出てきていることに驚いている。育ちのために必要な経験や教師の指導を具体的に伝え、保護者に幼稚園の教育に対しての理解を深めてもらいたい。

3 その他の意見

- ・発達の変化がはっきりしてきて、幼稚園の教育の成果がよくわかる。
- ・久松らしさを大事にしながら、教育活動・指導の充実をお願いしたい。